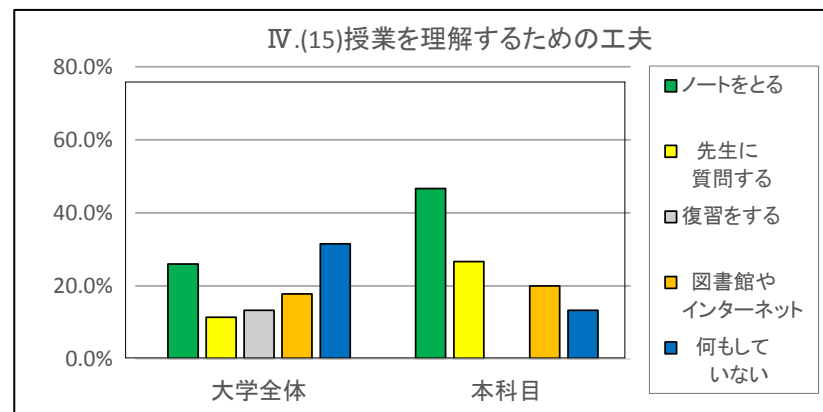


※レーダーチャートの平均は4段階評価 4(そう思う)、3(ややそう思う)、2、(あまりそう思わない)、1(そう思わない)

〈※複数選択可項目〉	ノートをとる	先生に質問する	復習をする	図書館やインターネット	何もしていない
IV.(15) 授業を理解するための工夫	46.7%	26.7%	0.0%	20.0%	13.3%



	設問No.	科目平均	全体平均
自身の受講姿勢	I.(1)	3.87	3.45
	I.(2)	3.73	3.56
	I.(3)	3.40	3.07
講義内容・方法	II.(4)	3.20	3.01
	II.(5)		
	II.(6)		
	II.(7)	3.67	3.33
	II.(8)	3.80	3.42
	II.(9)	3.73	3.30
	II.(10)	3.40	3.23
	II.(11)	3.47	3.21
	II.(12)	3.67	3.48
	II.(13)	3.73	3.45
満足度	II.(14)	3.80	3.41

	本科目平均	全体平均
自身の受講姿勢 I.(1)~(3)	3.67	3.36
講義内容・方法 II.(4)~(13)	3.58	3.30
総合的満足度 III.(14)	3.80	3.41

授業年度	2017年度後期
時間割番号	44106
科目名	教育相談の理論と方法B(中等)
教員名	岡村 季光

①授業計画の達成度について

本科目は、当初のシラバス通りにほぼ進められた。今年度から、毎回授業の冒頭ではなく最後に、前回の内容に関する復習テストを行い、理解の確認を図った。それ故、受講生各自が毎回の授業をその場で形成的評価できるようになった。また、自身の理解度を確認し、問題に正答できなかった箇所の復習を行うことを促した。その結果、今年度は全員が60点以上の評点となり、単位を落とす者はいなかった。形成的評価が効果的に働いたと考えられる。

②授業の進め方について

今年度より、PowerPointの構成を変更し、2画面を左右に分割する形で交互に画面が変わるように工夫を凝らした。その結果、ノートテイクが比較的遅い者も、ある程度の時間的余裕ができたようであった。自由記述欄にもPowerPointの見やすさやノートテイクのしやすさについて好意的な意見がみられた。また、小テストとともに感想や質問等の記入を求め、次回の冒頭で質問の回答を行った。それにより、質問が活発に出てきて、質問がしやすいという評価も見られた。さらに、昨年度と比してディスカッションを行う場面も増えたため、さらに活発な意見交流がなされた。

③アンケート全体を通しての自己評価、及び、今後の授業改善計画について

前年度までと比較し、ほぼすべての項目で全体平均を上回る結果であった。特に、講義内容・方法に関する項目においては前年度よりも数値の上昇がみられ、授業改善の効果が見られたと考えられる。特に、「ノートをとる」「先生に質問する」は大学平均と比して数値が高く、上述の授業の取り組みが奏功したものと考えられる。今後は授業内容をより改善して臨んでいきたい。